

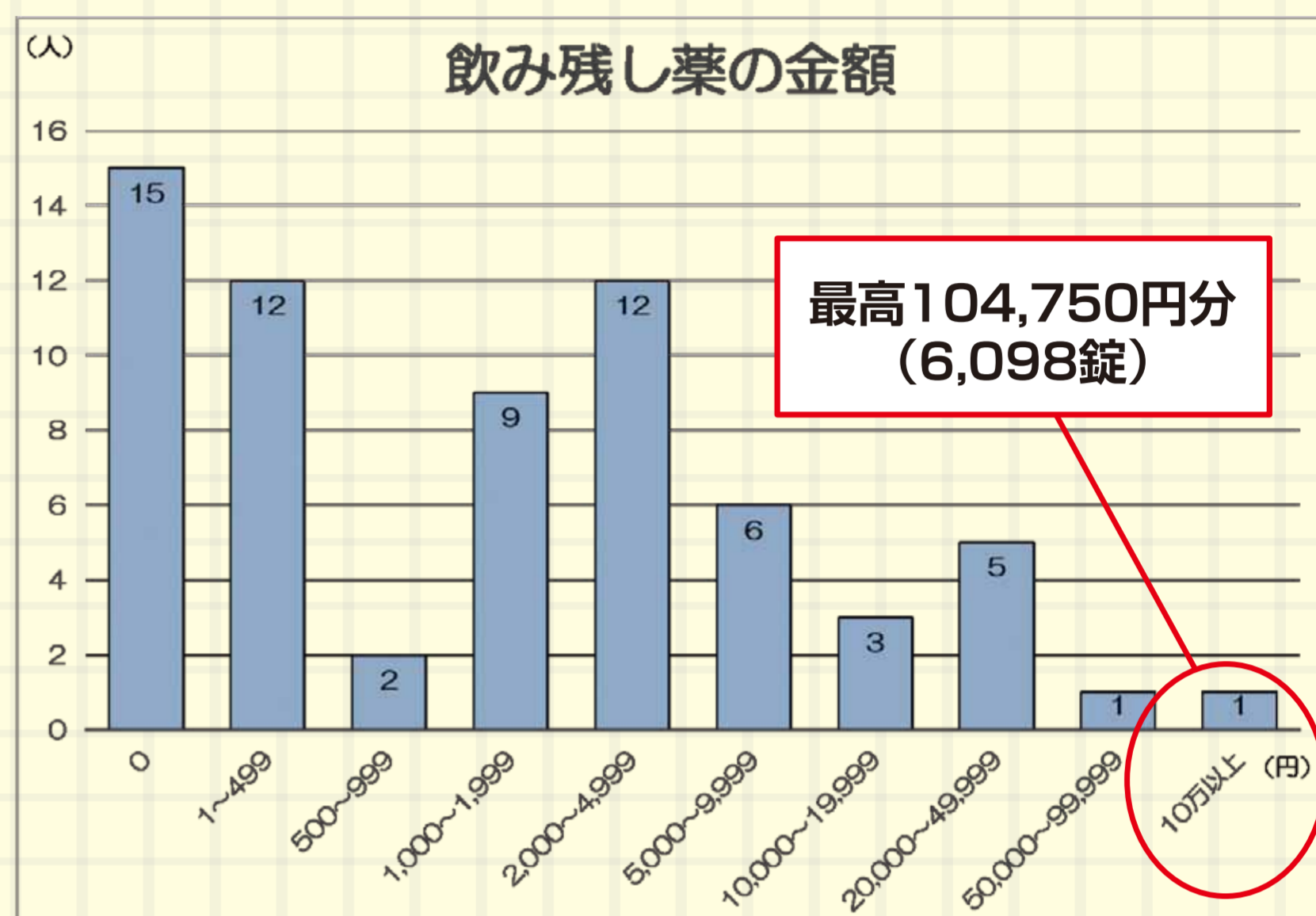
患者さん宅での飲み残し薬調査①

処方された薬が飲まれずに残っています!!

藤井寺保健所では、医師から処方された薬を患者さんがどのように管理しているか把握するために、中河内地区・南河内地区の薬局で処方薬を交付されている患者さん66名を対象に、飲み残し薬の有無等を調査しました。

その結果、患者さん1人当たりで平均で7,786円分の飲み残し薬が存在することがわかり、

**最も多い方では104,750円分
(計18種類/6,098錠)の飲み残しがありました。**



どうしてこれだけの飲み残し薬が生じるのだろう?

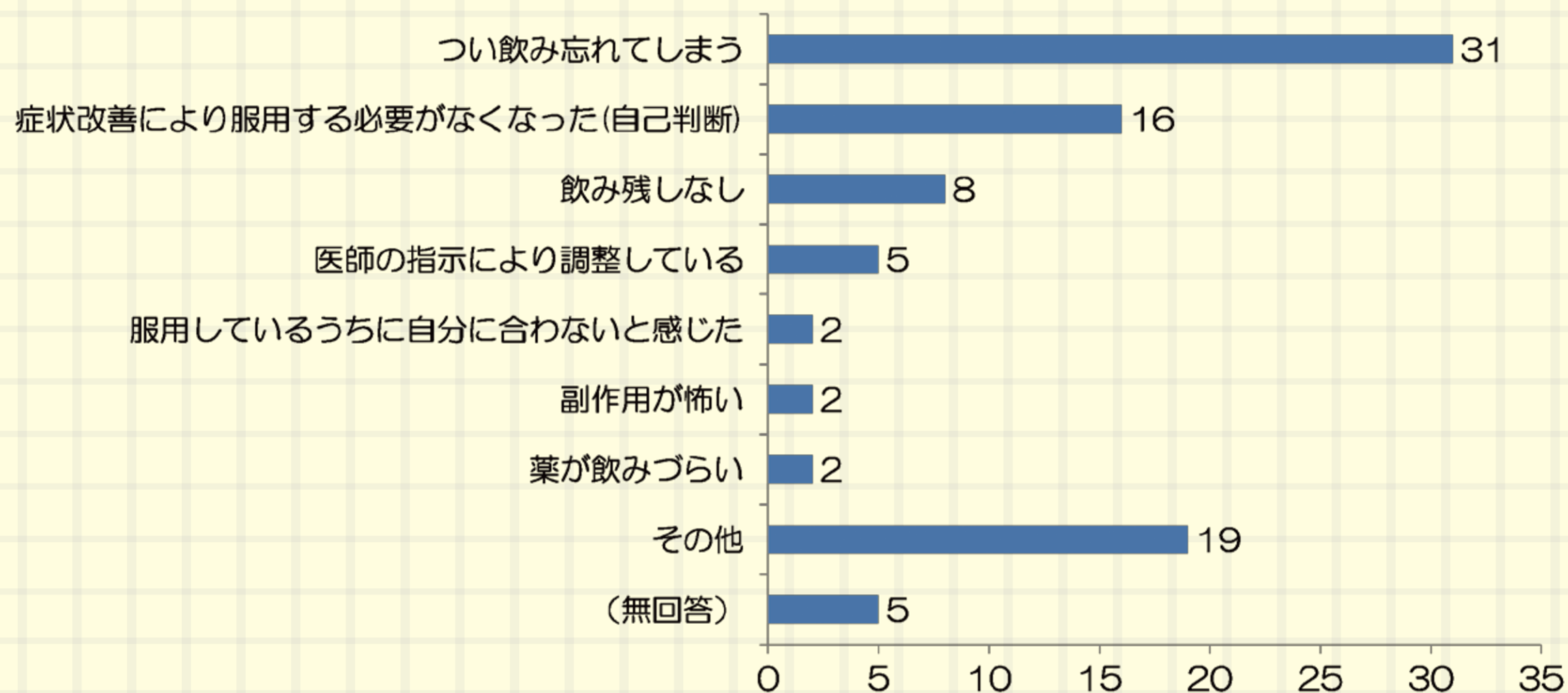
患者さん宅での飲み残し薬調査②

飲み残し薬が生じる背景は？

飲み残し薬が生じる理由は「飲み忘れ」「必要がなくなった」など

患者さんに行ったアンケートでは、飲み残しの理由として

- ・つい飲み忘れてしまう :31名
- ・症状改善により服用する必要がなくなった :16名 などの回答がありました。
(その他は、「外出のため」や「昼食を食べないため」等)



一包化や保管場所の工夫と飲み残し薬の関係について

各患者さん宅等における処方薬の保管状況(場所、状態)を調査したところ、薬を複数個所に分散して保管している患者さんや、薬を一包化していない患者さんの飲み残し薬は、そうでない患者さんよりも、多くなりました。

適切な薬の管理が、飲み残し薬の減少に重要であることがわかります。

薬の管理状況と飲み残し薬(円換算)の関係

<薬の保管状況別>

保管場所が複数 :10,888円
保管場所が一か所 : 5,039円
約2.2倍

<薬の調剤方法別>

一包化なし : 9,845円
一包化あり : 5,727円
約1.7倍

さらに…

「保管場所が複数」かつ「一包化なし」だと 16,036円
「保管場所1か所」かつ「一包化あり」だと 987円

でも、飲み残し薬が生じると何が良くないのだろうか？



患者さん宅での飲み残し薬調査③

飲み残し薬を減らすメリットは？

飲み残し薬があると、健康被害などのリスクにつながります

- 薬が飲まれていないので、十分な治療効果が得られず、治療期間が延長する
- 飲み残し薬が誤って使用され、健康被害が生じる などのリスクが生じます。

医師から処方される薬は、各患者さんの症状に合わせて出されたものです。

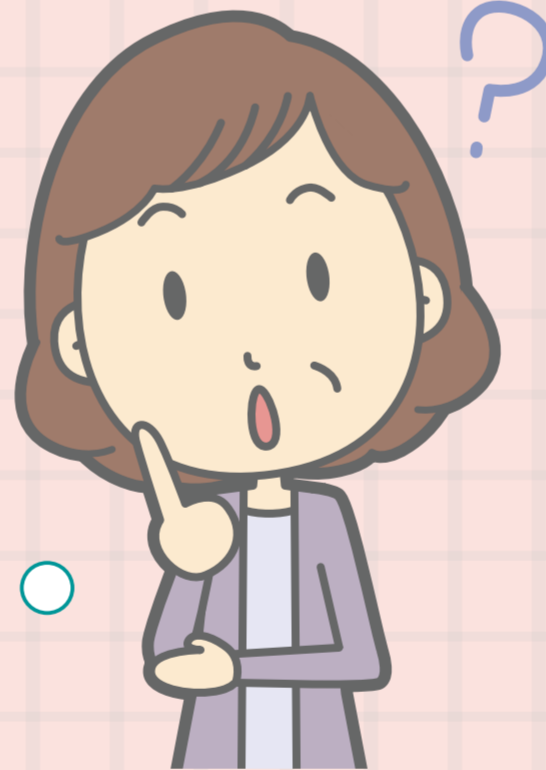
処方どおりに薬を飲むために、
適切に薬を管理して、飲み残しを無くしましょう

例) 薬を一包化してほしいと医師や薬剤師に伝える。
薬の保管場所を工夫する。(目に付きやすい場所一か所に保管する等)

もし薬の保管方法や飲み方について、疑問に思ったら…

薬の保管場所を工夫したいけれど、
置いてはいけない場所があるかも？

飲み忘れはないけれど、
症状が良くなったので、飲むのをやめたい。



薬の種類が多いうえに、一日に何回も
飲まなくてはいけないのがたいへん。

誤った方法で薬を飲んだり、誤った方法で薬を保管すると、
健康被害のリスクにつながります。

薬についてわからないことがある場合には、
かかりつけの医師や薬剤師に相談して、
正しく薬を使いましょう。

八尾市薬剤師会 柏原市薬剤師会
松原市薬剤師会 藤井寺市薬剤師会 羽曳野市薬剤師会
富田林薬剤師会 河内長野市薬剤師会 大阪狭山市薬剤師会